

地方公共団体の行財政運営の特性を踏まえた財務業績の示し方について

- ◎ 地方公共団体は総合行政主体として、經常的事業・投資的事業の双方にわたって様々な業務を担っており、中でも固定資産形成等の資本的支出が恒常的に大きな割合を占めている。このため、地方公会計における財務業績の示し方としては、フロー・ストック双方の業績を合わせて示す観点から、經常的事業・投資的事業を合わせた財源・資源配分の状況を網羅性・一覽性を確保しつつ示すことが適当ではないか。
- ◎ また、世代間の負担の適正化を図る等の観点から、現役世代と将来世代の受益と負担の関係を示すことが重要であり、これをフロー・ストック双方の要因を含めて示すためには、純資産の変動により示すことが適当ではないか。
- ◎ 純資産の変動を示すにあたっては、その要因を的確に示す観点から、単に資産と負債の差額の変動状況を示すのではなく、固定資産・長期金融資産について、その総額の増減状況を示すことが適当ではないか。

これにより、過去に建設した公共施設の老朽化の度合いとそれに対してどれだけの新規投資を行ったかの対比を示すことができ、また地方公共団体の財政状況を適切に把握する観点から、基金の増減等の情報も正確に示すことができるのではないか。
- ◎ さらに、将来世代の負担となる公債について、それが資産形成に充当されたものであるか否かを明確に区分して示すことが適当ではないか。